

## 千葉市 PTA 連絡協議会と教育委員との意見交換会（意見概要）

### 1 日時・場所

平成 29 年 1 月 19 日（木）16：00～17：30 ポートサイドタワー12 階 第 1 会議室

### 2 出席者

- ・千葉市 PTA 連絡協議会役員等 9 人
- ・教育委員 4 人

### 3 意見交換テーマ

将来「はたらく」ために今必要な教育とは ～キャリア教育の推進に向けて～

### 4 意見概要

千葉市 PTA 連絡協議会から、キャリア教育に関し家庭や地域で行っている取組み、学校教育・行政に望むことについて発言の後、教育委員も交え自由な意見交換を行った。

#### ■家庭や地域での取組みについて

- ・地域では、青少年育成委員会や町内自治会などの活動を通して、地域のことを知ったり、地域の大人と関わったりしている。家庭では、家事を分担させて責任を持たせている。いずれも、コミュニケーションが大切。
- ・家庭では夢を持つことの大切さを教えている。子どもをキッザニアに連れて行き、さまざまな職業を体験させた。
- ・家庭や地域では、学齢に応じて社会のルールや大人になるための基礎を教えていくことが大切。子どもに自由に決めさせていくことという考え方もあるが、それだと自己主張の強い子どもになってしまう恐れもある。

#### ■学校や行政に望むことについて

- ・学校はカリキュラムが多い。また、先生はシナリオ通りに進めたがっている。子どもの間で問題が起こったときは、子ども同士の話し合いの中で解決させるように指導してほしい。
- ・学校の教科のカリキュラムを少し減らして、人間力を育てる教育をしてほしい。
- ・子どもの身近に「憧れの人」がいると良いと思う。憧れの人がいることで、生活の励みになる。高校生を身近に感じることができる中高一貫教育も良い影響を与えると思う。
- ・「働くこと」について意識づけをしていくことが重要。職業選択の資料は、中学校の図書室に多く所蔵されている。今の子どもたちは、コンピューターで調べることが多くなっているが、これだと知識に偏りが出る。もっと本で調べることを大切にしてほしい。
- ・時代に合った教育より、個人に合わせた教育を進めてほしい。
- ・今の日本は、学力重視になっている。やらされている勉強ではなく、自ら目標を見つけて、それに向けて勉強をするよう指導してほしい。
- ・キャリア教育は、「点」ではなく、「線」で取り組むべき。

## ■中学生の職場体験について

- ・雰囲気を経験するだけの内容だと、生徒の感想は単に「楽しかった」で終わってしまうので、それでは不十分。子どもたちは「お客さん」ではない。
- ・期間が短い。最低でも1週間は行うべき。また、中1でも行うなど体験機会を増やしてほしい。
- ・職場で中学生を受け入れたことがあったが、学校や先生方が何を求めているのかよく分からなかった。目的を明確にした体験にするべき。
- ・職場体験は大切だと思うが、あまり早々に職業を定めるのも善し悪し。今は、将来の職業が見えない（分からない）時代なので、将来の選択肢を増やしていくべき。
- ・身近な大人の職業を取材して、友達同士で紹介し合ったらどうか。職業の良いところだけではなく、大変なことやつらいことなども勉強してほしい。
- ・ある学校の事例として、企業（会社）側から学校に訪問し、仕事のことなどを教える取組みを行っている。スライドを見せて仕事内容を伝えたりするなど、子どもたちにも好評。お互いの都合の良い時間にプログラムを組むことができるため、時間のロスも少ない。
- ・親の職業を見せたことで、子どもも同じ職業を目指すようになったので、そのような経験させることも良い。

## ■その他

- ・私は幼児の自主保育をやっているが、子どもの遊びなどについては、子ども同士の話し合いで決めさせている。大人は口出しせず見守る。多数決ですぐに決めずに話し合う大切さを教えたい。
- ・子どもの自主性を伸ばすことが、積極性にも繋がる。
- ・子どもには夢を持たせる。そして夢から逆算して、今の生活を送るべき。
- ・現時点で夢がないのであれば、とにかく勉強をすべき。将来、成功するためには、勉強をしておくことが大切。
- ・今の若い子は、怒られ慣れていない。若い子には、キャリア教育の前に人間性を教えていくべき。
- ・子どもにはさまざまな体験をさせる。実際に体験することが重要。
- ・小さい子どもは、職業の選択肢が少ないと思うが、そんな中でも何らかの選択をさせて、その目標に向かって進めるよう取り組むべき。
- ・学力や体力はいつでもつけることができる。小さい頃は、人間力をつけることをすべきで、この先、困難なことがあっても立ち上がる力がつくと思う。大きくなってからでは人間力をつけることはできない。
- ・何か困難なことがあっても乗り越える力が低いと感じる。そのため、逞しく生きていく力をつけることがキャリア教育だと思う。